

# 注目した「顔が見える範囲での自治の推進」 市議会総務常任委員会視察で薩摩川内市などを訪問

8日から10日まで市議会総務常任委員会の視察に出かけてきました。視察地は薩摩川内市、鹿児島市、北九州市。地域づくりや情報システム管理などの先進事例を学ぶことが目的でした。

このうち薩摩川内市での視察について報告します。ここでは全国から注目されている地域コミュニティ協議会について学んできました。

同市は、2004年10月に川内市など9市町村が新設合併してできた自治体です。面積は683平方キロメートルといえますから上越市の4分の3くらいです。大きな市域のなかで、どう住民自治を育てていくか。同市が選択したのは、おおむね小学校単位で設置する地域コミュニティ協議会でした。現在、その数は48にのぼります。

説明を聞いて私が注目したことのひとつは、地域コミュニティ協議会を設置する地域の広さです。同市が設置している、おおむね小学校単位というのは、吉川区でいえば、旭地区、吉川地区、源地区くらいです。この広さなら、顔が見える自治の推進は可能です。そして、ここで自らの「地区振興計画」を策定していました。これには感心しました。

注目したことのふたつ目は、この地域コミュニティ協議会の運営です。各町内会組織から会費を出してもらい、市への補助金申請では公開プレゼンテーション（計画・企画案などを説明すること）もやっている。地域コミュニティ協議会にたいする住民意識が高まっているというもうなづけました。

先日行われた上越市主催の自治フォーラム

で、明治大学の小田切徳美教授が、「地域住民の幸福感はまちづくりへの参加度で決まる」と話されていました。この地域コミュニティ協議会が特産品を作ったり、地域の祭りをやったりしながら、じつに生き生きと活動していることが強く印象に残りました。視察したメンバーからも、「地域コミュニティの迫力を感じる」「これなら誰にもすつとわかつてもらえる」等の声が出ていました。

## 雨がぱらつくなか、第5回体育祭

第5回吉川区体育祭が12日、吉川小学校グラウンドで開催されました。時おり、雨がぱらつく天候でしたが、旭地域づくり会議など7つの



## シリーズ 上越市内の橋

### 第2回 歓喜橋



歓喜橋と書いて「かんきばし」と読みます。本町4丁目から浄興寺大門に通ずる橋。初代の橋は昭和3年につくられ、現在の橋は昭和44年に竣工したものです。橋の長さは約10メートル。市街地を流れる儀明川には何本もの橋がかかっています。色が目立ちます。橋の名は、浄興寺の山号の「歓喜踊躍山」からとったと言われています。次回は荒川橋。

地域グループから約600人が集い、楽しい競技をくりひろげました。

毎回、熱が入るのは綱引き、大玉・小玉送りなどの地域対抗種目です。今回、話題になったことのひとつは、大玉・小玉送りです。誰かから勝利の方程式を教えてもらったのか、それとも事前の練習の成果か、いずれにしてもたいしたものだと思います。（写真上は保育園児の踊りを見て、お母さんの背中で体を動かす赤ちゃん）

会場では来月1日に行われる越後よしかわやっつたれ祭りのピーアールもありました。これもぜひ盛り上げたいものですね。



【オトギリソウ】漢字で弟切草と書きます。ちょっと物騒な名前ですが、止血・傷薬などに薬効があるとされ、民間薬として使われています。花は黄色で7月、8月に咲きます。花言葉は秘密。上越市内各地で咲いています。